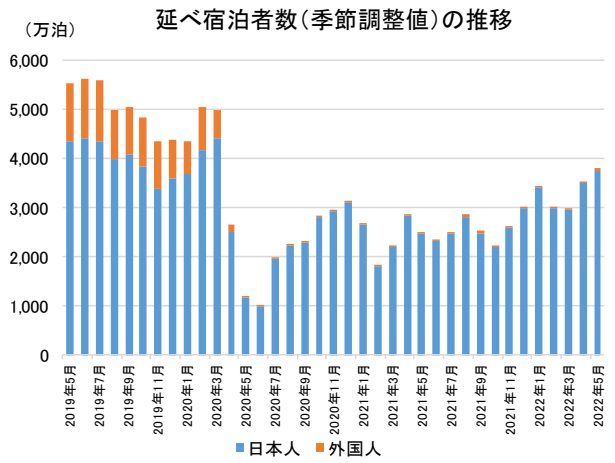
Economic Indicators

発表日:2022 年 6 月 30 日(木)

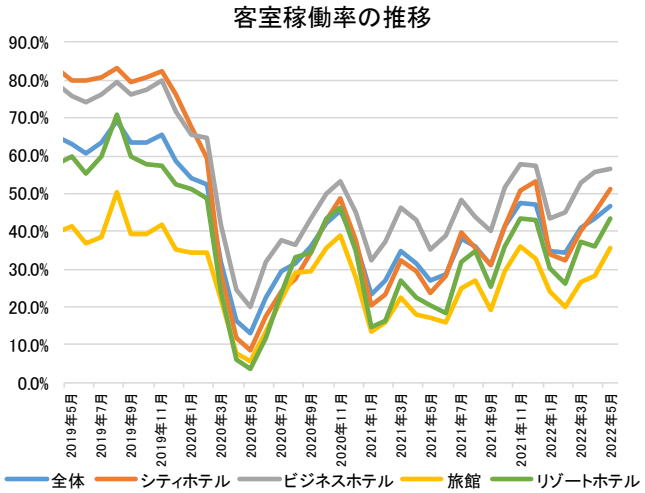
宿泊旅行統計調査(2022 年 5 月)

～3 年ぶりの行動制限の無いゴールデンウィークで、宿泊者数が大きく回復～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 小池 理人(TEL:03-5221-4573)



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」
※季節調整は第一生命経済研究所



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

○3 年ぶりの行動制限の無いゴールデンウィークで、宿泊者数が大きく回復

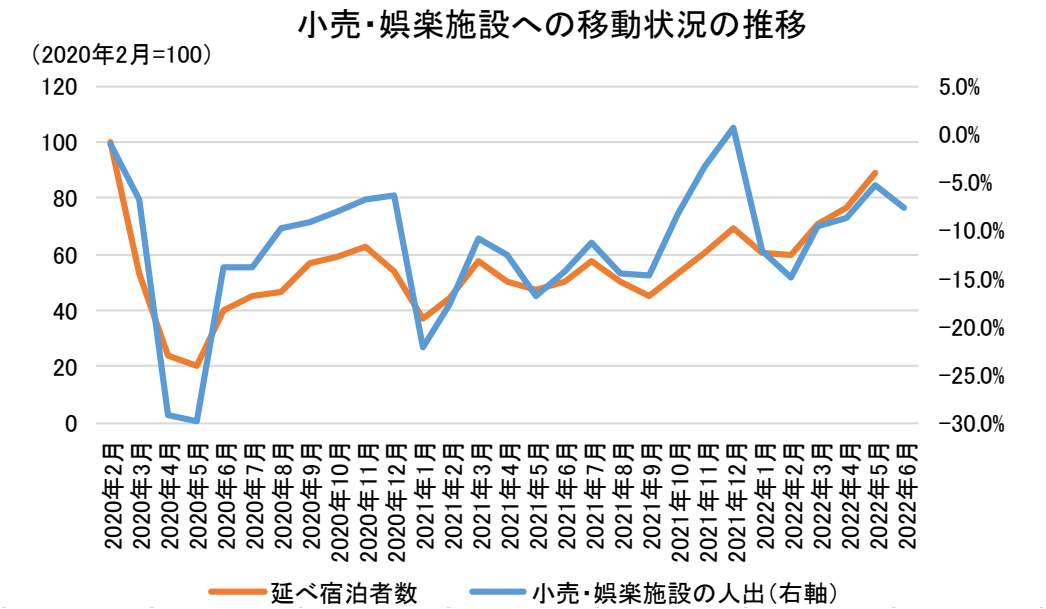
6 月 30 日に観光庁から発表された 22 年 5 月の延べ宿泊者数は 3,779 万人泊となった。新型コロナウイルスの影響が出る前の前々年比でみると▲26.5%（4 月：前々年比▲33.7%）と減少幅が縮小し、季節調整値（季節調整は第一生命経済研究所）では前月比＋16.3%（4 月：同＋7.5%）と増加が続いている。5 月は、3 年ぶりに緊急事態宣言やまん延防止等重点措置といった行動制限の無いゴールデンウィークがあったということもあり、宿泊者数が大きく増加する結果となった。客室稼働率の 2019 年同月差を見ても、全ての施設タイプで客室稼働率の上昇が確認され、宿泊事業者の経営環境が改善してきていることが示されている。

○先行きは日本人観光客・外国人観光客、双方の回復が見込まれる

今後の延べ宿泊者数（季節調整値）の動向について、回復傾向での推移が続くと見ている。感染状況が改善したことにより、今後も宿泊需要は回復傾向での動きが続くだろう。県民割が7月14日宿泊分（7月15日チェックアウト分）まで延長されること、7月前半からは全国を対象とした観光需要喚起策の実施が予定されていることなど、政策的な後押しは勢いを増している。更に、6月1日からは1日当たりの入国者の上限が1万人から2万人に引き上げられ、6月10日からはこれまで認められていなかった外国人観光客の入国が再開されることで、訪日外国人の増加も期待される。今後の観光需要は日本人観光客・外国人観光客双方が増加する中で、回復傾向での推移が続くだろう。

リスク要因としては、感染状況の悪化が挙げられる。新規感染者数は減少傾向での推移が続いていたが、足もとでは増加に転じる動きがみられている。今後、感染状況が再び悪化する事態になれば、

国内旅行者の減少はもちろん、水際対策の緩和が停滞することにより、外国人旅行者の受け入れも後退することで、宿泊者数の回復は足踏みを余儀なくされるだろう。



出所：出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」、Google「Community Mobility Reports」より
第一生命経済研究所作成
※季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。